

令和7年度能美市総合教育会議 議事録

I 日 時 令和7年11月17日（月）

開会 13時30分 閉会 15時01分

II 場 所 能美市根上総合文化会館 2階 204会議室

III 出席者

【構成員】

市長	井出 敏朗
教育長	横関 達人
教育長職務代理	徳野 伸彦
教育委員	竹本 里奈
教育委員	崎山 由樹夫
教育委員	中田 桂子

【教育委員会事務局】

管理局長、次長兼学校支援課長、教育総務課長、まなび文化スポーツ課長、ふるさと文化財課長、学校支援課課長補佐、教育総務課主査、能美市学校給食センター栄養教諭

【司会進行】

教育総務課長

IV 内容

- 1 開会
- 2 市長挨拶

(市長)

本日も大変お忙しい中ご出席をいただき、また日頃から能美市の教育行政にご尽力頂いていることに御礼を申し上げたいと思います。

最初に、熊とインフルエンザのことに触れさせていただきたいと思います。今年の6月に入ってから熊を確認する回数が増え、能美市においては草木を刈る、あるいはカメラの設置台数を増やす等を前倒しで行ってきましたが、秋に入りました引き続き熊の確認回数が大変増えている状況です。パトロール等を強化しながら、特に児童生徒に被害が及ぼぬように、保護者の皆さんのご協力をいただきながら取り組んでおりますが、引き続き教育委員の皆様にもぜひご支援ご協力いただきたいというのが一点目でございます。

二点目はインフルエンザです。全国的に流行しております、市内でも一部の小中学校で学級閉鎖の措置をしているところです。対策としては手洗い・うがいの徹底あるいはワクチンの予防接種です。予防接種はご家庭の任意ということになっておりますので学校から推奨する訳にはいきませんが、できるだけ喚起等しながら、インフルエンザの流行を食い止めていきたいと考えております。この点におきましても、教育委員の皆様のご支援ご協力をいただければと思います。

今日は議題にございます二点についてお諮りさせていただきます。

一点目の学校給食につきましては、市内小中学校の長寿命化対策の一環として、新しく給食センターをオープンし、自校式の給食を取りやめ、現在二つの給食センターから提供させていただいております。提供にあたっては安全安心はもとより、美味しいこと、そして物価高騰等にも対応し、加えて最近は牛乳が苦手な子がいたり、あるいは中学校でお米を食べる量が減っている等もありまして、これらのことに対して栄養士が様々な取り組みをしております。今日は知られざる栄養士の取り組みを、皆さんにたっぷりと紹介させていただきたいというのが一点目でございます。

二点目は不登校児童生徒に対する取り組みです。本日の資料にもあります通り、依然高止まりの状況でございまして、この現状に対してどんな対応をしていくかということで、今日はハード、ソフト二つの面で紹介させていただきます。ハードの方は、今秋常町にあります教育センターが手狭かつ老朽化ということから、寺井町の生活支援センターに移転することになっております。移転により、サンテにある

こども相談ステーション、こちらは妊産期から生まれたお子さんの青年期まで絶え間ない支援をしていく場所ですが、そちらと教育センターとの連携を強化することができます。ソフト面では、能美市はG I G Aスクールを積極的に取り入れておりまして、I O T機器を活用して不登校の子どもたちにどう対応していくかということ、また不登校だけではなくて、学校に来ても教室に入れないという児童生徒が最近増えているということでございまして、この対応等も今日皆さんにご紹介させていただきます。皆様からいろいろとご意見を賜りますようお願い申し上げまして冒頭の挨拶といたします。よろしくお願ひいたします。

3 議題

- (1) 安全安心な学校給食の提供について～栄養士の目線から～
- (2) 不登校児童生徒・保護者への多様性を包摂する支援について

(事務局)

安全安心な学校給食の提供について～栄養士の目線から～

教育総務課主査・能美市学校給食センター栄養教諭が説明

(徳野委員)

二点質問があります。一点目は、能美市学校給食センターの職員配置のことです。能美市職員と株式会社ジーエスエフの職員がお互い協力して運営をされているということですね。冒頭の市長のお話にもありましたように、感染症などが蔓延していると、長期にお休みされる方もいらっしゃるかと思いますが、その際の代わりの職員はいらっしゃいますか。

二点目は、先ほどの献立の説明で大変興味深く拝聴していたのですが、子どもたちに献立を考えていただいたということで、子どもたちに考えてもらった献立の中でコンテストのようなことをして、例えば栄養価が一番いい等で選ばれた献立を実際に給食にされたことはありますか。

(教育総務課主査)

一点目についてお答えします。お休みの職員がいた場合は、補充して対応にあたっております。株式会社ジーエスエフが運営している他の給食センター等から応援にきていただきます。

(能美市学校給食センター栄養教諭)

二点目についてお答えします。当センター管轄の小学校は4校ございまして、各小学校の6年生に全員献立を立ててもらいました。その中から学校によって投票制、先生方による選出又は子どもたちによる選出など様々な形で各校から一つずつ選んでいただきました。選ばれた献立については来年2月の給食として採用する予定です。

(徳野委員)

自分たちで考えた献立を実際に食べることで、子どもたちの栄養バランスに関する理解が深まると思います。私も数ヶ月前に寺井小学校で給食をいただく機会がありまして、本当に美味しかったです。ありがとうございます。また安心安全のため頑張っていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(中田委員)

今日のお話で栄養面や残食軽減の取り組みがとても理解できましたし、大変工夫されて、毎日お仕事されてるなと感心しました。

今まで調理室が学校にあり、子どもたちは目や香りで、給食を作っている姿を身近に感じていたんですが、調理の場が給食センターに移ったことで、そういう姿を子どもたちに見てももらえる工夫やセンターの見学等、そういうことはされていますでしょうか。

(能美市学校給食センター栄養教諭)

つい先日も粟生小学校から2年生2クラスに見学に来ていただきまして、給食センターの施設を紹介するDVDを見たり、見学スペースから実際に調理員が働いている様子を見たり、自分が実際に調理をしているようなVR体験をしたりしていた

だきました。まだ見学に来られていない子どもたちにも、皆さんの給食はこのように作っていますよ、ということで調理中の映像を学校で見てもらう取り組みをしていますので、身近に感じていただいているのではないかと考えております。

(中田委員)

子どもたちが実際の調理の様子を見ることにより、家庭においても料理をしているお母さん方の姿を見て、ご飯を残さず食べようという気持ちになるのではないかと思いました。ですので、学校の授業でもなるべく見学を受け入れられるように工夫されるとよいと思います。ありがとうございました。

(崎山委員)

残食軽減について、1人当たりの摂取量というのはグラム数が決められたうえで計算して作られてると思いますが、小中学生では、体の成長具合もかなり違いますし、おそらく食べる量にも差があるのではないかと思われます。その辺は一律に配膳するというよりも、各教室、各学校で、その子に応じた配膳の工夫はあるのでしょうか。

(能美市学校給食センター栄養教諭)

基準は決まっておりませんので、数字上はそれに従って、このクラスはこれだけの量、と決まっております。ただ先ほどもありましたが、毎日の残量を見て、このクラスはこういったものが苦手だと分かったときには、少し減らして様子を見たり、食べる量が増えてくれれば量を元に戻したり、日々の残食の様子を見ながら、細かくチェックしています。

(竹本委員)

先日もうちの特別栽培米を給食に出していたいただいて、学校にお招きいただきありがとうございます。私は小学生と中学生の子どもがいる親として、給食には本当に感謝しています。家では好き嫌いすることが多いですけれど、給食を楽しみに学校に行ってるところもあって、家ではなかなか食べないものでとか、作らない料理を給食として食べててくれるるのは嬉しく思っております。また、給食アンケート

の結果で、給食が好きな理由として美味しいからというのはもちろんのですが、友達と一緒に食べられるからというのが数字としてとても多いことが嬉しく思いました。能美市産の食材を使った料理や、外国の料理など様々な料理を提供していくだいてますけれども、やはり友達と一緒に食べるという部分も給食の良さとして大きいと思います。その他栄養バランスや彩り等もすごく考えていただいて感謝しております。これからもよろしくお願いします。

(教育総務課主査)

こちらこそ、先日は学校にお越しいただきありがとうございました。生産者の方から直接子どもたちに、このお米は有機栽培で、どのような肥料をつかって、農薬がどのくらい少ないかっていうお話をしていただくことで、当日のお米の残食量が大変少なかったということがありました。今後も生産者の方にご協力いただきて、学校給食にいろいろ取り組んでいきたいと思います。ありがとうございます。

(崎山委員)

意見ですが、先日の新聞に、地元のお米を使ったり、食材費の高騰に耐えられるように、質を落とさないような補助をするということが出ていましたので、そのような制度も有効活用しながら、頑張って美味しい給食を提供していただけたらと思います。

(教育総務課長)

貴重なご意見ありがとうございます。

(事務局)

不登校児童生徒・保護者への多様性を包摂する支援について

学校支援課課長、学校支援課課長補佐が説明

(中田委員)

二点お願いします。一点目、リモートで先生に相談する件について、これはどの程度活用されて、どのように解決されているのでしょうか。

二点目、私は朝七時半から九時半頃まで毎日ボランティアとして浜小学校におります。浜小学校は寺井小学校や辰口中央小学校のように県の加配がないので、地域のコミュニティスクールの委員が携わっております。そこで、教室になかなか入れない子どもたち、そして保護者の方に毎日接していくわかることは、毎日何でも話せる理解者が身近にいることがすごく大切だということです。毎日接しているとボロッと本音を話してくれる、これはとても大切なことですので、浜小学校としては積み上げていきたいと思っています。ただ、何せボランティアなので毎日変わらずずっと出られるということもないのですが、なるべく皆さんの協力を得て子どもたちのためにやって行きたいなと考えております。関連して、沢田知恵先生の親の会は来年度も開催予定はありますでしょうか。

(学校支援課長)

一点目、辰口中学校の事例ですが、年間で10数件くらい書き込みがあります。日頃の面談、保健室の先生や担任に直接相談ということもあります、そこで相談できない、行けない生徒を狙ったものです。書き込み内容としては、まず身体的悩みの相談です。生徒の希望に応じて養護教諭が対応したケースがあると聞いております。続いて進路相談です。自分が将来この様な専門に進みたいので、例えば数学や理科など、より専門に特化した先生に相談したいということで、担任以外の先生を指名する、というケースがあったそうです。ほかには、やはりストレスが溜まっているですか、学業不振、友達との関係性の悪化等の相談もあるとのことです。その他、つぶやきのみということで、悩みをつぶやくだけですっきりしたという生徒もあり、多様な生徒の多様な悩み相談の場の一つとして、良い事例かと思っております。

二点目、浜小学校のほっとる一むをいつも支えていただきありがとうございます。沢田先生の会は、来年度も継続して参りたいと思っております。

(崎山委員)

別室登校について二点お願いします。一点目、別室登校の根上中学校の相談室がかなり手狭で、資料に掲載の写真で見るより狭い部屋なので、もう少し広い部屋が欲しいということ、そして寺井中学校のアワールームは以前パソコンルームとして使用しており、それが目隠しになって勉強しやすいという面もあるのですが、できれば辰口中学校のような環境で勉強できるような部屋の充実をぜひとも今後進めていっていただきたい。

二点目としましては、別室からの授業参加について、コロナ禍のノウハウを活かして、本人からの希望があれば、自分が行けない授業を別室で受けられるような対応が今後一層充実していくといいなと希望しております。今は別室からオンラインで授業しているという事例を見たことがないので、その点も充実していただければという風に思います。

(学校支援課長)

一点目からご説明します。確かに根上中学校に今開設しているルームは手狭でして、その代わりに以前校務員室であった部屋をルームとして整備するとともに、元々の講義室を個別最適なブースとして聞く用意をして、合計で3部屋ございます。ですので1室しかない学校と比べると、手狭な分を個数で担保している工夫がございますので、ご報告いたします。

(崎山委員)

校務員室は個別の小さな部屋なので、辰口中学校のような部屋が今後整備されれば良いと思います。

(学校支援課長)

教育総務課と相談しながらハード面について、あとは学校のニーズも含めて、現場の使い勝手等もヒアリングしまして、その他担当との連携を踏まえて考えてまい

ります。また、寺井中学校のパソコンルームに関して、実は文部科学省の方からGIGAスクール構想において、旧パソコンルームを全面撤廃して、違う用途とすることについては慎重に行う旨の通知が3年前に出ております。これについては引き続き検討を重ねてまいりたいと思います。

(学校支援課課長補佐)

二点目のオンラインでの授業参加につきましては、市教委としても積極的に活用してほしいということを、校長会等でお知らせをしております。体調不良で不登校になっていた子どもが、少し勉強できそうだということで家庭からオンラインで繋いで授業の様子を見るところからスタートして、家でも少し学べるようになり、では教室に行こう、ということで少しずつ段階をあげて様子を見るという例があります。また、教室に入るのは難しいが別室から授業の様子はしっかり見ておきたいということで、毎日オンラインで参加しているという例も聞いております。

先日も計画訪問の研究事業で、パソコンでオンライン参加している子どもがおり、先生は研究授業をしながら、子どもたちが個別に考える時間にはオンライン参加の子どもとやり取りをして、教室にいる子どもたちもオンライン参加の子どもも、両方対応できており、よい活用をしていました。市内の学校に広めていきたいと考えております。

(崎山委員)

これからも充実をお願いします。直接不登校とは関係ないかもしれないが、浜小学校の取り組みのところで共感的な人間関係を育成するということがあり、とても大切なことだと思いました。最近中学生の授業を見ていると、交流を意識しており、交流で時間が結構取られているように思います。交流といつても子どもたちが自由に交流するということもあるし、先生がリードしてコーディネートして、お互いを繋げるという交流もあります。私が最近授業を見ていると、後者の交流、何々さんのそういう考えについてはこう思うとか、何々さんのそういう考え方すごいよねとか、自己存在感というか自己決定の場を先生の言葉かけでどんどん作ってあげて、そこを育ててあげるという場面が減ってるというふうに思います。その結果、授業において落ち着きのない場面があるように思うことがありますので、交流のあり方

について、市教委としても、方向性を考えて、指導していただければとおもいます。

(学校支援課長)

ありがとうございます。今、全国的によく呼ばれている児童生徒主体、委ねるということがまなびの弊害とも捉えられてるというご意見でしょうか。

(崎山委員)

どちらも大切だと講師の方はおっしゃいますよね。今風の授業と昔ならではの授業とのバランスをうまくとつてほしいというふうに思います。

(学校支援課長)

全国で今大流行しているのは自由進度学習、子ども主体の学び、子どもに委ねるという方針です。しかしながら能美市教育委員会としては、以前からこの考え方に対する警鐘を鳴らしております。何もかも自由に、子どもに委ねています、子ども主体なんですねということは、指導の放棄だと思っておりまして、子どもが間違ったものを身に付けるおそれもありますし、適宜適切な指導が大事だと捉えています。校長協議会や計画訪問の度に、流行の教育に学ぶべきところは多いが、自主性と指導のバランスをとること、子どもに委ねるという名の放置、放任にはならないようにということは以前から伝えております。引き続き、崎山委員からいただいたご示唆をしっかりと受け止めて、子どもの主体性と教師の指導性のバランスをとつて育んでまいります。

(崎山委員)

市教委のスタンスを聞いて安心しました。特に若い先生方が視察や研修を受けたあと、流行りの授業になる傾向があるので、バランスよく進めていただきたいと思います。

(徳野委員)

教育委員の立場でいつも見ていて、教育委員会の方々、学校サイドも含めて本当に子どもたちのためにいろんな取り組みをされていて、昔と比較してはいけないと

思いますが、我々が小中学生の頃には果たしてこのようにいろんな方に寄り添った取り組みがあつただろうかと感じております。学校に来られるけど教室に入れない子、自宅にいるけど月に何回、週何回なら来られる子。それぞれ授業に対してサポートされる方、地域のボランティアの方がいらして、こんな贅沢なことはないのではないかと個人的には思います。

能美市だけではなく、石川県下そして全国的に、不登校というのは非常に大きな問題になっているのではないかと思います。学校に来られない多種多様な原因がある中で様々な対応をされていて、水面下にいろいろな原因が広がっていて、人員と時間をかけてそれらがつながってきているのが現状だと思うのです。これは能美市だけではないと思うのですが、例えば他市町そして全国の自治体の方とこの件についてコミュニケーションを取る場というのはあるのでしょうか。

(学校支援課課長補佐)

私は生徒指導担当をさせていただいておりますが、今月末に県下の生徒指導担当の指導主事が集まる会議がありました。この会議は年に2回あります。情報交換をする機会となっています。こちらでいろいろな話を聞いてきて、良い事例があれば能美市でも取り入れようということで、導入しております。

(徳野委員)

全国的にも状況は同じだと思いますので、他自治体で少しでもいい取り組みがあれば、ぜひ導入していただきたいです。不登校の生徒の中学生を卒業した後、この先の人生を考えると、非常に心配される点があるのではないかと思います。人は人と接してはじめて成長するものではないか、学習だけでは成長できないのではないかと思っておりまして、自宅からのオンラインでの授業参加のお話もありましたが、不登校の子どもたちが少しでもまた学校に出てきて、友達や先生と接することができるよう、よろしくお願ひいたします。

(竹本委員)

質問ではなく私の想いとして申し上げますが、「うちの子に限って不登校にはならない」ということは本当にどの家庭であってもないと思うのです。いつどのタイミ

ングでどうなるかというのは予測できないことだと思っていて、子どもの想いもあるし、親の想いもあるし、もしかしたら子どもが親や先生の前では自分の想いと違うことを言ったりということもあるかと思います。先生や教育委員会の方が子ども達を思って行動して下さっていることは、今教育委員をやらせてもらってすごく感じています。私の周りの方でも、不登校の子がいるお母さんたちは話をすごく聞いてほしいと思っています。先ほど出た沢田先生の会もとても良い取り組みだと思うのですが、そこに行けない人もおそらくいるのではないかと思う。参加しようかどうしようかなと悩んで参加できない人がいて、でもきっと話は誰かに聞いてほしい。子どもも誰かに話を聞いてほしい。子どもの想いと親の想いは違ったりするでしょうから、子どもが親には言えないけど他の誰かには言える、親が第三者の誰かになら話せる、そういうようなものがあるといいなと感じました。

(学校支援課長)

ありがとうございます。また周知に努めていきたいと思います。

(中田委員)

認知特性のチェックテストの結果は、保護者に開示されますか。

(学校支援課長)

チェックテストを行う前に保護者の同意を取ります。そしてテストを行い、結果を開示します。

(司会進行)

委員の皆様、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。それでは井出市長から、全体を通したご意見をお願いいたします。

(市長)

皆さん、貴重なご意見等ありがとうございました。

一点目の栄養士の目線からということでございますけども、冒頭申し上げたように、栄養士はどちらかというと縁の下の力持ち的な存在でありました。ただ今日、いろいろと活動紹介させていただきましたが、例えば学校から戻ってきた給食の鍋を全部開けて残食量をチェックしたり、学校等で様々なPRをしてもらったりしておりますので、ぜひクローズアップしていきたいと思いました。能美市学校給食センターのパンフレットは栄養士がつくりましたし、先ほどの説明にもありました牛乳の取り組みについては広報能美11月号で紹介しました。栄養士には引き続き子どもたちのために頑張ってほしいですし、おそらく皆さんも本日の発表を見てメールを送られたのではないかと思いますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

そして二つ目のこの不登校児童生徒につきまして、委員から部屋をどうするんだというご質問というかご提案がございました。我々も先進地の事例を見ながら、部屋の在り方をいろいろと勉強しているんですけども、部屋の大きさだけではなくて、例えばその部屋に入る児童生徒が他の児童生徒から見られないような場所にするとか、トイレに行きやすい場所にするとか、位置の関係もあったりしますので、いろいろ制約がある中で、どのように場所を確保していくかということを、今いろいろ思案しております。ぜひいろいろとアドバイスをいただきたいと思います。そして不登校になる、あるいは教室に入れなくなるというのは、委員からもお話があったように、友達あるいは家庭、それから勉強や部活動がうまくいかなくなったりとか、それ以外のいろんなきっかけがある。まさに多種多様なのであります。教育センターや教育委員会の職員と、不登校あるいは教室に入れなくなった子の目標をどこに置くのかっていう話をするときに、「上位学校へ行くまでを目標にするのか。あるいは中学校を卒業するまでを目標にするのか」と私が問いましたら、「そうではない、やはり社会で活躍できるようになるまでを我々の目標にしたい」という返答をしてくれます。そんなことからこども相談ステーションの近くに教育センターを設置することで、冒頭申し上げたように、青年期までを能美市としてしっかりとサポートしていく、まさに能美市が目指す地域共生社会、誰1人取り残されない、そんな社会を教育センターや教育委員会とタッグを組んで取り組んでまいりたいと思っております。この点におきましても、引き続き教育委員の皆様にご指

導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、私からの総括とさせていただきま
す。本日はありがとうございました。

4 教育長閉会挨拶

本日は教育委員の皆さん、ご出席ありがとうございました。

学校給食については、今ほど市長からも縁の下の力持ちという言葉がありました
が、栄養士の仕事内容を理解していただけた機会を得ることができまして、本当に
よかったです。給食は子どもたちにとって楽しみの一つですので、こ
れからも安全安心な給食の提供に努めたいと考えております。

不登校に関する支援につきましては、教育センターの移転に伴いこれからも連携
の強化を図っていきたいと考えております。そして沢田先生の親の会が話題になりました。
私もその会を見に行きましたが、保護者の方が思いを吐露する場や保護者
同士が繋がり合える場があるとよいと思いました。またそういう面についても考
えていきたいと思っております。

今ほど市長が言われましたが、子どもたちにとっても、保護者にとっても、社会
に出るまで切れ目のない支援ができるように努めていきたいと思っておりますので、
今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。本日はどうもありがとうございました。